

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

JFEケミカル株式会社 西日本製造所 笠岡工場 [福山地区]

(2) 事業所の所在地

〒721-8510 広島県福山市鋼管町1番地

(3) 業種

その他有機化学工業製品製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成23年度を基準年度とし、平成24年度から平成28年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実績排出量 (a)		目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：実績排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))							
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
エネルギー 起源CO ₂			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実績排出量総計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス みなし排出量												
実績に対する自己 評価												

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 装入量(千 t)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
		平成23年度	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
エネルギー 起源CO ₂	26.2	24.7	6.0	23.9	24.7	24.8		
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計	26.2	24.7	6.0	23.9	24.7	24.8	0.0	0.0
エネルギー消費 原単位 (原油換 算kl)	10.87	10.33	5.0	10.28	9.98	9.73	100.0	100.0
実績に対する 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・基準年度(23年度)の原単位(26.2)に対して、26年度の原単位は24.8で削減率は5.3%と5年間で6%を削減するところを3年間でほぼ達成している。 ・平成25年以降の電力会社CO₂排出係数の悪化は原単位の上昇に影響している。 (中国電力係数 H24 : 0.000657 ⇒ H25 : 0.000738 ⇒ H26 : 0.000719 共同火力係数 H24 : 0.000750 ⇒ H25 : 0.000812 ⇒ H26 : 0.000888) 上記の電力会社のCO₂排出係数の影響が無ければ更なる原単位の低減を見込めていた。 							

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	ベンゾールストリッパー減圧化 (2012年12月稼働)	11585 t (2014年4月～2015年3月寄与分)	ベンゾールストリッパーを従来の常圧スチーム蒸留方式から減圧蒸留方式に改造し、燃料（コークス炉ガス）、スチームの使用量を削減した。
2	蒸気発電による省電力 (2012年9月稼働)	685 t (2014年4月～2015年3月寄与分)	小型蒸気発電機を設置し、スチーム減圧時のエネルギーロスを回収して発電を行うことで省電力を図った。
3	減圧AST保温材設置による省エネ (2014年1月稼働)	242 t (2014年4月～2015年3月寄与分)	減圧ASTへ保温材を設置することにより、スチームの使用量を削減した。
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。